雲仙市観光マーケティングレポート2026年10月

UNZEN City Tourism Marketing Report

2026
October



今月の風景/天幕レストラン(白雲の池)

一般社団法人 雲仙観光局
UNZEN Destination Service

Find UNZEN

INDEX

今月のサマリー

年間訪問者数推移

今月の日別訪問者推移

今月のブロック別訪問者割合

今月の訪問者属性

今月の発地×年代比率

他都市比較

今月の特集：2026年シルバーウィーク来訪動向

雲仙観光局活動報告

今月のサマリー

【9月実績】155,592人、前年比125%。シルバーウィークが大きく押し上げ

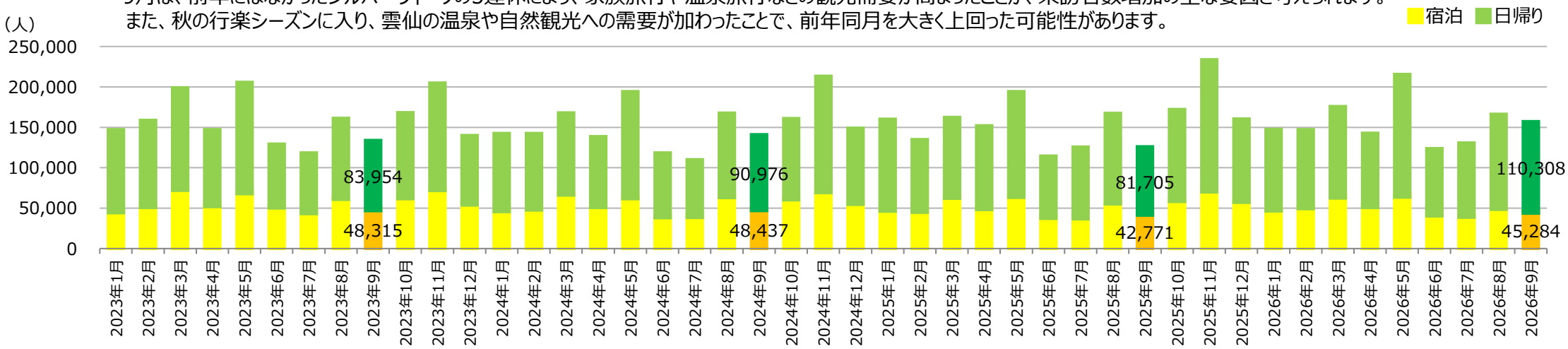
- 9月に雲仙市を訪れたお客様は155,592人で、前年同月（124,476人）を大きく上回り、前年比125%となりました。11年ぶりとなるシルバーウィークの5連休（9/19～23）に来訪が集中し、9月の延べ来訪者の約4割がこの5日間に訪れています。
- 曜日別では、日曜・祝日が前年同月比132%、平日も120%と前年を上回った一方、土曜は98%とほぼ前年並みでした。宿泊者数（推計）は45,284人で前年比106%と、来訪者全体ほどは伸びていません。
- 訪問者属性では40～50代が全体の54%を占め、男女比は男性65%・女性35%でした。比較した九州の主な観光地もすべて前年を上回っており、連休が九州全体の観光需要を押し上げたことがうかがえます。

【今月の特集】2026年シルバーウィーク来訪動向

- SW5日間の延べ来訪者数は61,768人で、前年同期間の約2.1倍。地域からも「想像以上だった」という声が聞かれるほどの来訪となりました。
- 増加の中心は、福岡・熊本など九州内の県外からの来訪（約2.4倍）です。旅程別では、雲仙市内の宿泊も倍増した一方、日帰りや、雲仙を訪れて市外に泊まる周遊型の来訪がそれ以上に伸びました。
- SWを除いた9月では、熊本・大分の観光地が2桁の減少となる中、雲仙市はほぼ前年並み（−0.8%）を保ちました。春から取り組んできた避暑地としての発信も、来訪を後押しした可能性があります。

年間訪問客数推移（2023年からの推移）

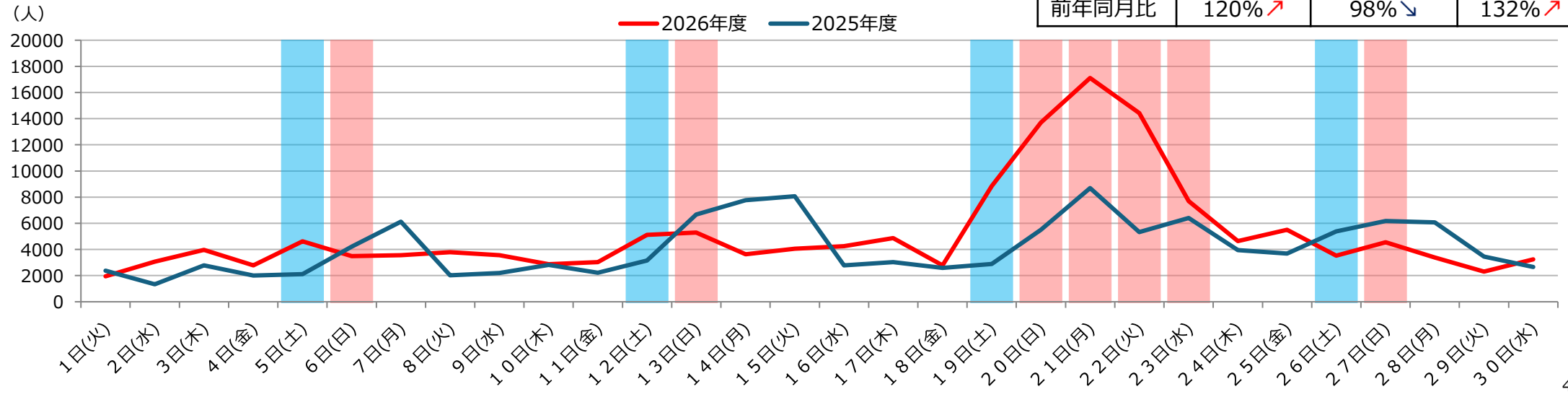
・訪問者数は**155,592人**（前年同月124,476人、**対比 125%**）で、前年を上回りました。
・9月は、前年にはなかったシルバーウィークの5連休により、家族旅行や温泉旅行などの観光需要が高まったことが、来訪者数増加の主な要因と考えられます。
また、秋の行楽シーズンに入り、雲仙の温泉や自然観光への需要が加わったことで、前年同月を大きく上回った可能性があります。



9月の日別訪問客数推移

9月は夏休み需要の反動により平日・土曜の来訪者数が前月を下回った一方、シルバーウィークの5連休を背景に日曜・祝日の来訪が大幅に増加しました。特に日曜・祝日は前年同月比132%となり、連休を利用した温泉旅行や秋の行楽需要が、全体の来訪者数を押し上げたと考えられます。

9月	平日	土曜	日・祝
今月平均	3,539人/日	5,526人/日	9,465人/日
前月比	78%↘	89%↘	135%↗
前年同月比	120%↗	98%↘	132%↗



※延べ宿泊滞在数（例1名が2泊3日の場合は3名とカウント）

資料）おでかけウォッチャー、入湯税実績より推計

九州ボルケーノツーリズム協議会FAMツアー受入れの様子

雲仙・阿蘇・鹿児島の３地区連携によるモデル観光地事業も今年で4年目を迎え、今回は、株式会社島原観光ビューローと協力して、島原半島3泊4日モデルコースを造成しました。

10月7～10日にFAMツアー(メディアや旅行業者を招聘するツアー)を実施し、海外の高付加価値旅行を取り扱う4社にご参加いただき、天幕レストランやE-Bikeツアー、小浜の蒸し窯など、島原半島の魅力を存分に体験いただきました。

「火山と共に生きる」というコンセプトのもと、今回の3泊4日では、島原半島の人々にとって火山とは？共に生きるとはどういうことか？を感じていただきました。我々にとっての日常が、旅行者にとっては非日常であり、魅力的な観光素材になるとのことで試行錯誤しながら造成したツアーは、地元の人とのふれあいも含めて和やかなものとなりました。高付加価値旅行ならではの様々な気付きやアドバイスをいただきました。

今回は、島原エリアの新たな体験コンテンツを行程に組み込んだ旅行商品を造成しました。今後は、南島原エリアを含む島原半島全体でのツアー造成を進めるとともに、事業者の皆さまとの連携強化や各コンテンツの磨き上げを通じて、高付加価値旅行者の受け入れ体制の強化を図ってまいります。



稲刈り中の地元の農家さんと一緒に↑

GOOD TIDE OBAMAの報告

10月18日(日)、小浜温泉の海辺を舞台に開催した「GOOD TIDE OBAMA 2026」は、無事に終了いたしました。当日は、たくさんの皆さまにご来場いただき、誠にありがとうございました！

足を運んでくださった全ての皆さま、そして開催を支え、一緒にイベントを盛り上げてくださった地域の皆さまへ、心より感謝申し上げます。海に出て遊び、夕日を眺め、温泉街を楽しむ。海と温泉街がすぐそばにある小浜だからこそ生まれる、新しい楽しみ方を皆さまと共有できた一日となりました。

今回のイベントをきっかけに、小浜の海がもっと身近な遊び場となり、海から温泉街へと楽しみが広がっていくことを願っています。これからも、小浜ならではの魅力を活かした新しい体験や楽しみ方をお届けしてまいります。今後の取り組みにも、ぜひご期待ください！



雲仙市を365日楽しむワーキングのようす

9月～10月にかけて、雲仙市を365日楽しむワーキングでは、「企画立てワークショップ」が進んできました。自らの企画を実現化したい人が企画を持ち寄り、参加者も一緒に考えていくワークショップです。9月24日(金)は、プレビュー意見交換会をオンラインで開催。約18名が集まり、4つの企画の説明を受けて、グループLINEを使って参加者から意見を募るという行いました。LINEで意見を募ると、文章で残ってあとで見返すことができる上、同時に多くの意見を集められることが分かり、新たな発見でした。企画を発表した参加者も、思わぬ視点からのアドバイスや応援の言葉を受けて、より良い企画のための布石をつくることができたようです。

10月23日(金)は、リアルで集まって「企画立てワークショップ」を開催しました。4つの企画「雲仙キッズレンジャーキャンプ」「小浜朝活ガイド」「雲仙ぽてふぃ（フィッシュアンドチップス）」「雲仙わくらくライド」に加え、南島原エリアからも新たな企画の持ち込みがあるなど、活発なワークショップとなりました。企画を持っていない人でも、他の企画立てに参加することで、自分の視野が広がる会として、今後も続けていきたいと思います。

次回は、「日本一ワクワクする雲仙市の季節の暦」の作成に焦点を当てて、ワーキングを開催したいと思います。11月中を予定しておりますので、ぜひご参加ください。



各企画を集中して考える参加者の皆さま↑

うんぜんよもやま交流会11月予告

雲仙のデータと暮らし、ビジネスとまちづくりを、ゆるやかにつなぐ会「うんぜんよもやま交流会」。10月に予定していた第4回ですが、台風の影響で11月に延期となりました。次回は、「数字で見る雲仙 Vol.4-リピーターとファミリー層のペルソナを深堀る-」です。この交流会は、観光局が一方的に話す勉強会ではありません。雲仙で働く人、暮らす人、地域を支える皆さんが集まり、一緒に聞き、考え、心地よい「なるほどね」を持ち帰るためのゆるやかな対話の場です。テーマは観光やビジネスだけに限りません。子育て、地域メディア、工場、交通、防災、地質など、普段は観光と直接結びつけて語られにくい話題もよもやまに語り合いながら、地域の商いを未来につなげるヒントを見つけていきましょう！詳細は、会員限定LINEグループでお知らせします。

一般社団法人　雲仙観光局　UNZEN Destination Service
〒854-0621　雲仙市小浜町雲仙320番地　TEL：0957-73-3639　FAX: 0957-73-3620
（公式URL）https://unzen-dmo.com（全員集合！雲仙ポータル）https://www.unzen-portal.jp/

【ご注意：本資料の転載・複製での利用について】
本資料は、一般社団法人　雲仙観光局の著作物であり、著作権法に基づき保護されています。
本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。事前に当局までご連絡ください。使用用途によって転載・複製をご遠慮いただく場合もございます、予めご了承ください。
※お問い合わせ先：雲仙観光局／ブランディング・マーケティング部（担当：黒原・白濵・衣川）
本資料は弊局が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。
本資料を利用する場合にはお客さまのご判断でご利用ください。